

資料-2 詳細年次計画

研究大・中・小項目別5ヶ年計画

(1-低温冷害)

研究課題	研究項目	中項目	小項目	年次計画	実施機関	備考	
I. 災害気象の対策技術	1. 低温冷害の作物気象特性に関する研究	1) 三江平原冷害発生規律の研究	(1) 作物別冷害発生の実態の解明	1986~88	中心、分中心	合江農業科学研究所 (農科研) 合江水稻研究所 (水稻研)	
		2) 三江平原農業気候区分の研究	(1) 三江平原の冷害発生危険度の地域区分の策定 (2) とうもろこしの生育時期別好適温度と冷害指標の策定 (3) とうもろこしの最適計画栽培法の策定	87~89	"	(農科研、水稻研)	
	2. 安定多収の計画栽培法策定に関する研究	1) とうもろこし(玉米)の安定高生産の計画栽培法の研究	(1) とうもろこしの生育時期別好適温度と冷害指標の策定 (2) とうもろこしの最適計画栽培法の策定	88~88	中心、分中心	(農科研)	
		2) 水稻の安定高生産の計画栽培法の研究	(1) 水稻の生育時期別好適温度と冷害指標の策定 (2) 水稻の最適計画栽培法の策定	88~88	中心、分中心	(農科研) (水稻研)	
	3. 気象象改良技術の確立に関する研究	1) 水田気象特性と気象改良による冷害防止の研究	1) 水田気象の实態解明 2) 井戸水灌漑の昇温技術	87~88 87~88	中心、分中心 "	(水稻研) (")	
		2) 畑地の気象特性と気象改良による冷害防止の研究	(1) 畑地の気象の実態解明 (2) マルチによる畑水稻の冷害防止 (3) マルチによる大豆の冷害防止 (4) 地温上昇剤の研究 (5) 大畦栽培による昇温効果と大面積栽培 示 (6) 栽培条件の差異が群落内気象に及ぼす影響	87~88 88~88 88~88 87~89 87~88	分中心 中心 分中心 " "	(農科研) (農科研) (") (") (")	
				87~88	中心		

研究課題	研究項目	中 項 目	小 項 目	年次計画	実施機関	備 考
II. 施肥法改善と 地力向上	I. 安定多収のための施肥法改善 と地力向上に関する研究	1) 低温冷害条件下における水稻、とうもろこ し、大豆の施肥基準の研究(草刈土)	(1) 水稻に対するN.P.K.の施肥基準の研究 (苗期、分けつ期、減数分裂期、開花期)	1987~88	分中心	(水稲研)
			(2) とうもろこし、大豆の施肥基準の研究 (苗期、節間伸長期、成熟期)	87~88	中心、分中心	(農科研)
			(1) 有機物(麦稈)施用効果と土壌の理化学 性への影響	87~88	分中心	(農科研)
		2) 有機物施用による地力向上の研究	(2) 有機物施用大面積の展示圃造成	87~88	分中心	(農科研)
		3) 腐層耕による自糞土の理化学性の改善と 地力向上の研究	(1) 自糞土と刈藁の腐解程度の効果と土壌 の理化学性、生物相、養水分の变化 (2) 腐層耕の導入による生産向上の効果と 大面積生産展示圃の造成	88~88	分中心	(農科研)
				88~88	分中心	(農科研)

研究課題	研究項目	中項目	小項目	年次計画	実施機関	備考
IV. 低温冷害生理の解明	1. 生育時期別の低温冷害感受性に関する研究	1) 水稻の生育時期別の低温反応に関する研究 2) とうもろこしの生育時期別の低温反応に関する研究	(1) 生育時期別の低温が水稻の形態生態に及ぼす影響 (2) 品種、栽培方法の差異が生育時期別の低温冷害感受性に及ぼす影響	1988~88 87~88	中心 中心	
			(1) 生育時期別の低温がとうもろこしの形態、生態に及ぼす影響 (2) 品種、栽培方法の差異が生育時期別の低温冷害感受性に及ぼす影響	88~88 87~88	中心 中心	(農科研)
	2. 低温冷害の生理的発生機作に関する研究	1) 水稻の遅延型冷害の機作に関する研究 2) とうもろこし、大豆の遅延型冷害の機作に関する研究	(1) 生育時期別の低温が大豆の形態生態に及ぼす影響 (2) 品種、栽培方法の差異が生育時期別の低温冷害感受性に及ぼす影響	87~88 87~88	中心、分中心 中心、分中心	(農科研)
			(1) 低温による花粉不稔の原因の究明 (1) 低温による光合成、呼吸作用の低下と冷害との関係 (2) 作物体の N, P 吸収、乾物形成と分配、糖分の蓄積と酵素活性に及ぼす低温の影響	88~88 88~90 88~90	中心 中心 中心	

(2-水利開発)

研究課題	研究項目	中項目	小項目	年次計画	実施機関	備考
I. 電子計算機 利用技術開発	1. 水収支解析手法に関する研究	1) 灌漑システム開発 2) 排水システム開発 3) 水文システム開発	(1) 灌漑必要度を求めるための数値モデルの開発	1988~90	水科研	水科研：三江平原水利研究室
			(2) 最適配水システムの数値モデル開発	87~80	"	宝清站：宝清三江水利試験場
			(1) 実験展示圃区域における流出解析システム	87~80	"	
			(2) 小農地区域における流出解析システム	86~88	"	
			(3) 大農地区域における排水機構解析システム	87~80	"	
			(1) 水文データ及びビデオバンク	87~88	"	
			(2) 数値解析システム	88~87	"	
			(3) 基礎的水文解析システム	88~87	"	
			(4) 水理解析システム	87~80	"	
			II. 灌漑技術開発	1. 作物別用水量に関する研究	1) 畑作物の水分消費特性に関する研究 2) 水稲作灌漑における時期別用水量試験	(1) 作物別用水量の測定と計算方法の研究
(2) 土壌-植物系における水分移動に関する研究	87~80	"				
(3) 作物別水-取量関係特性の検討	87~80	"				
(1) 土壌タイプ別シロコキ用水量の検討	87~88	宝清站				
(2) 時期別灌漑用水量試験	87~88	"				
(1) 灌漑下における作物別土壌水分消費型に関する研究	87~80	水科研、宝清站				
2. 灌漑計画簡元に関する研究						

研究課題	研究項目	中項目	小項目	年次計画	実施機関	備考
Ⅲ. 排水技術開発	1. 流出・水収支の諸計測と処理 組織に関する研究	1) 灌漑方法別適用技術に関する研究 2) 灌漑水廻に関する研究 3) 配水組織に関する研究	(2) 地下水位及び土壌条件が水分補給量に与える影響についての調査	87~89	水科研	
			(3) 凍結層による春干、春澇の発生機構と発生頻度に関する調査・研究	87~89	"	
			(1) 灌漑計画諸元値の策定	89~90	"	
			(2) 灌漑計画諸元値と気候特性からみた灌漑必要度・区分の策定	89~90	"	気象局
			(1) 灌漑方法別適用値の策定と適用区分	89~90	"	
			(1) 温水池の昇温機構に関する研究	87~90	"	宝清站
			(2) 迂回水路等導水方法による昇温効果の測定と解析	87~90	"	"
			(1) 水路の配置と用水管理組織についての検討	89~90	水科研	
			(2) 灌漑施設(組織)の経済性についての検討	89~90	"	
			(1) 展示圃場内における流出機構の調査研究	1) 実験展示圃場区域における流出機構の調査研究	1) 展示圃場内における流出機構の調査研究	87~89
(2) 展示圃場内における地目別単位排水量の解析	87~89	"				
(3) 圃場内における水収支の計測と解析	87~90	"				
(4) 圃場整備前後における流出機構の比較検討	87~90	"				

研究課題	研究項目	中項目	小項目	年次計画	実施機関	備考		
IV・土質材料試験 技術開発	2. 農地排水計画諸元に関する 研究 1. 濃縮対策のための土質説明と 土質・水質保全に関する試験 研究	2) 小農地区域における流出と水利用の実態調 査	(1) 小農地区域における流出機構の説明 (2) 用水反覆利用農地における水収支の解析	88~88 88~88	宝清站 "			
		3) 大農地区域における排水密度別流出機構 の調査・研究	(1) 排水路の密度別流出機構の調査研究 (2) 排水路の密度別排水効果の測定と解析	87~80 87~80	" "			
		1) 暗渠排水方式決定のための試験	(1) 使用資材別暗渠の効果とその持続性の試 験研究 (2) 無材暗渠の効果とその持続性の試験研究 (3) 地域内土壌タイプ別暗渠の間隔埋設深さ の試験研究	87~80 88~80	" "			
		2) 斜面流出と土壌侵食対策の調査研究	(1) 屋外実証試験 (2) 屋内実証試験 (3) 土壌侵食防止対策の研究	88~88 88~88 88~80	" " 水科研			
		3) 高地灌漑水機構の説明と対策についての調 査・研究	(1) 内汚発生機構の調査研究 (2) 陸入汚発生機構の調査研究 (3) 対策工法の研究	88~88 88~88 88~80	宝清站 " "			
		1) 三江平原典型土の工学的特性に関する研究	(1) 白漿土、草甸土、黑鈣土などの工学特性 と凍上性・分粒性についての研究	88~80	水科研			
		2) 土壌、水質分析技術の確立	(1) 無機塩、有機元素、微生物等の分析技術 の検討	88~80	宝清站			

研究課題	研究項目	中項目	小項目	年次計画	実施機関	備考
V. 寒冷低湿地 施工方法開発	2. コンクリート材料の品質向上に関する研究	1) コンクリート水和剤の研究	(1) コンクリートの凍水・凍結防止・凍害防止用水和剤の利用に関する研究	87~90	水科研	
	1. 低湿地・軽度冠水地用施工機械の性能と施工技術に関する研究	1) 低湿地、軽度冠水地用施工機械の性能と施工技術に関する研究	(1) 低湿地用ブルドーザー及びトレクタの性能と作業効率の調査 (2) 条件別施工方法・施工プロセス並びに施工効果についての調査	88~90	"	
VI. 凍害対策開発	2. 凍害対策の機械施工に関する研究	1) 施工機械の合理的組合せに関する研究	(1) 掘削・運搬・舗装作業と機械の組合せについての調査研究 (2) 各種条件下における所要労力と消費燃料についての調査	87~88	"	
	1. 用水路の凍害対策開発に関する研究	2) 機械施工の総合評価 1) 用水路の凍害対策開発に関する研究	(1) 機械施工の総合評価 (1) 崩壊原因の現地調査及び法面安定勾配の策定 (2) 水及び土質条件が凍上・凍結に与える影響調査	87~88	"	宝珠站
	2. 道路の凍害対策開発に関する研究	1) 凍害による凍害の発生原因とその防止対策についての研究	(1) 凍害発生原因解明のための調査研究 (2) 防止工法の研究	88~88 89~90	" "	" "

研究課題	研究項目	中項目	小項目	年次計画	実施機関	備考
Ⅶ. 展示圃場造成 管理	1. 実験展示圃場造成施工試験 (実態調査)	1) 各種機械の施工効率調査	(1) 機種別選転実態調査 (2) 機種別歩掛り調査	86~87 86~87	宝清社 "	
	2. 灌漑実証試験及び展示	1) 畑地灌漑実証試験 2) 水田灌漑実証試験	(1) 各種灌漑方法の実証試験 (2) 軟質パイプによる送水方法の試験 (1) 時期別灌漑水深及び水温調査 (2) 温水池等水温上昇施設の昇温効果調査	87~88 86~88	" "	
	3. 排水実証試験及び展示	1) 地表流出機構の実態調査 2) 地中水排除工法の実態調査	(1) 圃場整備のモデル化についての検討 (2) 圃場整備後における排水効果調査 (1) 暗渠施工の効果についての実態調査	87~88 87~88	" "	
	4. 土壌改良実証試験及び展示	1) 土壌改良工法の試験 2) 低位生産性土壌の利用方法の調査	(1) 砂客土による土層改良試験 (2) 田舎栽培による土層改良試験 (1) 水稲作利用による土地生産性向上の調査	87~88 87~88 88~89	" " "	
小計	16	31	85			
計	25	52	117			

資料-3 展示圃場造成工事に係るR/D追記
(英・日・中文)

SUPPLEMENTARY NOTE ON THE RECORD OF DISCUSSIONS
ON THE TECHNICAL COOPERATION FOR THE SANJIANPINGYUAN
AGRICULTURAL RESEARCH CENTER PROJECT

Mr. Tsuguo YASHIMA, President Representative of the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") in the People's Republic of China and the authorities concerned of the Government of the People's Republic of China exchanged views on the special measures to supplement a portion of the local cost expenditures on the Technical Cooperation for the Sanjianpingyuan Agricultural Research Center Project (hereinafter referred to as "the Project").

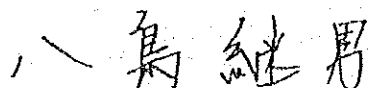
As a result of the discussions, both sides agreed to recommend their respective Governments the following for the successful implementation of the Project.

For fostering the smooth promotion of the Project, in accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to supplement a portion of the local cost expenditures for the execution of the improvement works of the physical infrastructure of the Project such as construction work of experimental fields and so on when necessity arises.

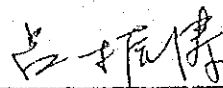
Done in duplicate in Beijing on May 24, 1986 in Japanese, Chinese and English languages, each text being equally authentic.

In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

Beijing May 24, 1986



Mr. Tsuguo YASHIMA
President Representative
Japan International Cooperation Agency
Beijing Office



Mr. Zhen Tao Lu
Vice-Director
Science and Technology Committee
Heilongjiang Provincial Government

中国三江平原農業総合試験場プロジェクト
に対する追加討議議事録

国際協力事業団（以下「JICA」という。）中華人民共和国事務所長 八島継男と中華人民共和国政府関係機関は、三江平原農業総合試験場プロジェクト（以下「プロジェクト」という。）に対するローカルコスト負担に係る特別処置について意見を交換した。

討議の結果、プロジェクトを成功裡に実施するため、双方はそれぞれの政府に対し、次のとおり勧告することに同意した。

プロジェクトの円滑な実施を促進するため、日本国において施行されている法律及び規則に従い、日本国政府は必要に応じ、JICAを通じて試験圃場の建設工事等プロジェクトの基盤整備を実施するため、ローカルコストを負担するための必要な処置をとる。

1986年5月24日に北京で等しく正文である日本語、中国語及び英語による本書2通を作成した。

解釈に相異がある場合には、英語の本文による。

1986年 5月 24日 北京

八島継男

八 島 継 男
北京事務所 事務所長
国際協力事業団

呂振寿

呂 振 寿
黒龍江省科学技術委員会 副主任
中 華 人 民 共 和 国

关于三江平原农业综合试验站技术合作

会谈纪要的补充

日本国国际协力事业团（以下称JICA）驻中华人民共和国事务所长八岛继男先生和中华人民共和国黑龙江省科学技术委员会副主任吕振涛先生就三江平原农业综合试验站的技术合作项目（以下称“合作项目”），采取特别措施补充部份地方建设投资问题交换了意见。

做为讨论的结果，为了“合作项目”圆满顺利的实施，双方同意就以下向各自政府提出建议。

为了迅速顺利地推动本“项目”的实施，遵照日本国现行的法律与规章，日本政府通过“JICA”。为这个项目的基础设施示范场建设工程增加部份地方建设投资，如试验场的建筑工程和其它必要的工程。

本文于1986年5月[✓]在北京以中文、日文和英文制成，各种文具有同等的效力。
24日

上述文本在解释上如有不同，以英文本为准。

1986年5月[✓]北京
24日

吕振涛

八岛继男

黑龙江省科学技术
委员会副主任

日本国际协力事业团
北京事务所所长

吕振涛

八岛继男

資料－４ 展示圃場用地に係る確約書

(中国側提出文書の日本語訳)

宝清における試験場用地の説明

“三江平原農業総合試験場の基本計画”に基づいて、宝清県に用地が40ヘクタールの総合モデル試験場を一個所設立する。試験場は現三江水利試験場用地の20ヘクタールを元とし、東と西へそれぞれ200メートルほど拡張する。当初予定では、拡張分の(20ヘクタール)用地は中国側が収用し、以って試験の仕事が順調に進行することを保証する予定であった。

しかし、その収用する際に問題となるのは、1983年以来、宝清の農村が全国的に“生産責任制”を採用していることである。つまり、国有の土地を農民たちに請負い耕作をさせるということである。請負い期間は15年である。

収用される土地の中に、畑地区では農家3戸、水田地区では農家11戸がある。農民らは、土地によって生計を立てているので、一旦収用されると、彼らの生活は成り立たない。そのため、宝清区政府は水利科学研究所に土地補償費を負担するほか、その14戸の農民の就職についても準備手配する様要求した。

その為水利科学研究所は土地接収に大変な困難に直面している。政府はおもてに出て協議調停に乗り出し、科学試験の正常な実施を保証し、又農民の生活を保障する為に、土地所有権が不変という情況下で、工程建設及び生産指揮権は水利研究所が責任を持つ。

試験の結果の理由に依り、生産が損失を蒙った場合、その損失部分は黒龍江省の水利研究所が補償する。

この為、公証機関の査証を経て、黒龍江省水利科学研究所は宝清鎮政府と近代的農業総合展示圃の建設に関する協議に関して署名した。

合意事項に基づいて、協同合作項目が順調に進行することを保証し、今後、試験用地に於いて、如何なる問題が発生しても、黒龍江省水利科学研究所が解決する責任がある。

黒龍江省水利科学研究所

副 所 長

1986.11.20

(注1) 法院又は民事上の権利義務関係に対する権利を授けられた機関の証明、契約書、遺囑等は公証を申請する。(現代漢語辞典より引用)

(付 属)

近代的農業総合展示圃の建設に関する協議

1. 科学技術の発展と中日両国による技術協力を進める必要により、町の北郊外に試験・展示を行なう近代的な農業科学基地の建設を予定している。そこにおいて、土地の潜在的生産力を向上させ、かつ生態系の均衡を良好に保持させうる近代的な農業技術のすばらしい威力を示す。そして農民の関心をよびおこし、近代的科学技術の発展と、生産力の向上をはかり、科学技術の成果を生産の場に生かそうとするものである。

2. 総合展示圃の構成

展示圃管轄の土地面積は40haであり、その内、国有地は20haである。現在(この)三江水利試験所の20haの土地を基礎とし、西側に196m、東側に210m拡張する。

3. 展示圃の内容

展示圃は統一的な計画のもとに、土地の区画化、地ならし、給排水設備の設置、土壌改良、道路の建設、防風林帯の設置を行なう。そして、そこに総合的な先進農業技術を導入し、近代的農業の効果を示す。

4. 展示圃の経営・管理

- ① 展示圃の計画及び建設は黒龍省水利科学研究所の責任で行なう。給排水設備、地ならし、道路建設にかかわる臨時的な投資は水利科学研究所で行なう。造成後の農地の所有権は変わらない。
- ② 統一的な計画に基づいて区画ごとの経営を行なう。試験所の西側は畑作、東側は水田です。
- ③ この事業の管理及び維持は主権の所在に基づき試験所及び建設村、和平村がそれぞれ責任を負う。機械設備は試験所で統一して保管する。その使用期間中における紛失や正常な状態では起り得ない損失、破壊は使用者がその損害を負担する。
- ④ 農業経営に必要な一切の費用は経営者が負担する。

5. 関係者の責任と権益

- ① 展示圃の土地は10年間は他の用途に使用してはならない。請負い農家の変更はこれを行なってはならない。(特殊な事情のある場合は試験所の同意を得ること。)
- ② 展示圃における集団所有地は必ず試験所の技術指導を受け入れなければならない。
- ③ 展示圃の土地の生産物は農業経営者の所有に帰す。もしも今回の建設により農作物が減産となった場合は、その減産部分は水利科学研究所で補償する。補償の基準は、水稻200kg/畝(畝=6.67アール)、小麦125kg/畝、トウモロコシ175kg/畝、大豆100kg/畝で、価格はその年の国の買上げ価格とし、農民が経済的な損失を被らないよう保証する。しかし、避けがたい自然災害や農民が試験所の技術指導を受け入れずに人為的な損失を招いた場合はこれを補償しない。

科学技術の成果により、展示圃の収量が通常の豊作年を上廻った時は、その超過部分を9:1で分ける。農民が9割で、水利科学研究所が1割である。通常の豊作年の基準は水稻350kg/畝、

小麦250kg/畝、大豆200kg/畝、トウモロコシ300kg/畝

6. 本協議で取り上げていない新たな問題が生じた場合は、双方で話合って解決をはかる。
7. 本協議は公証機関が公証を行なった後効力を発する。有効期間は10年とする。一式六部、各部門とも同一の効果を有する。

黒龍江省水利科学研究所	趙	景	惠
宝清県宝清鎮人民政府	卒	有	志
宝清県和平村	房	玉	栓
宝清県建設村	楊		

1985年8月3日

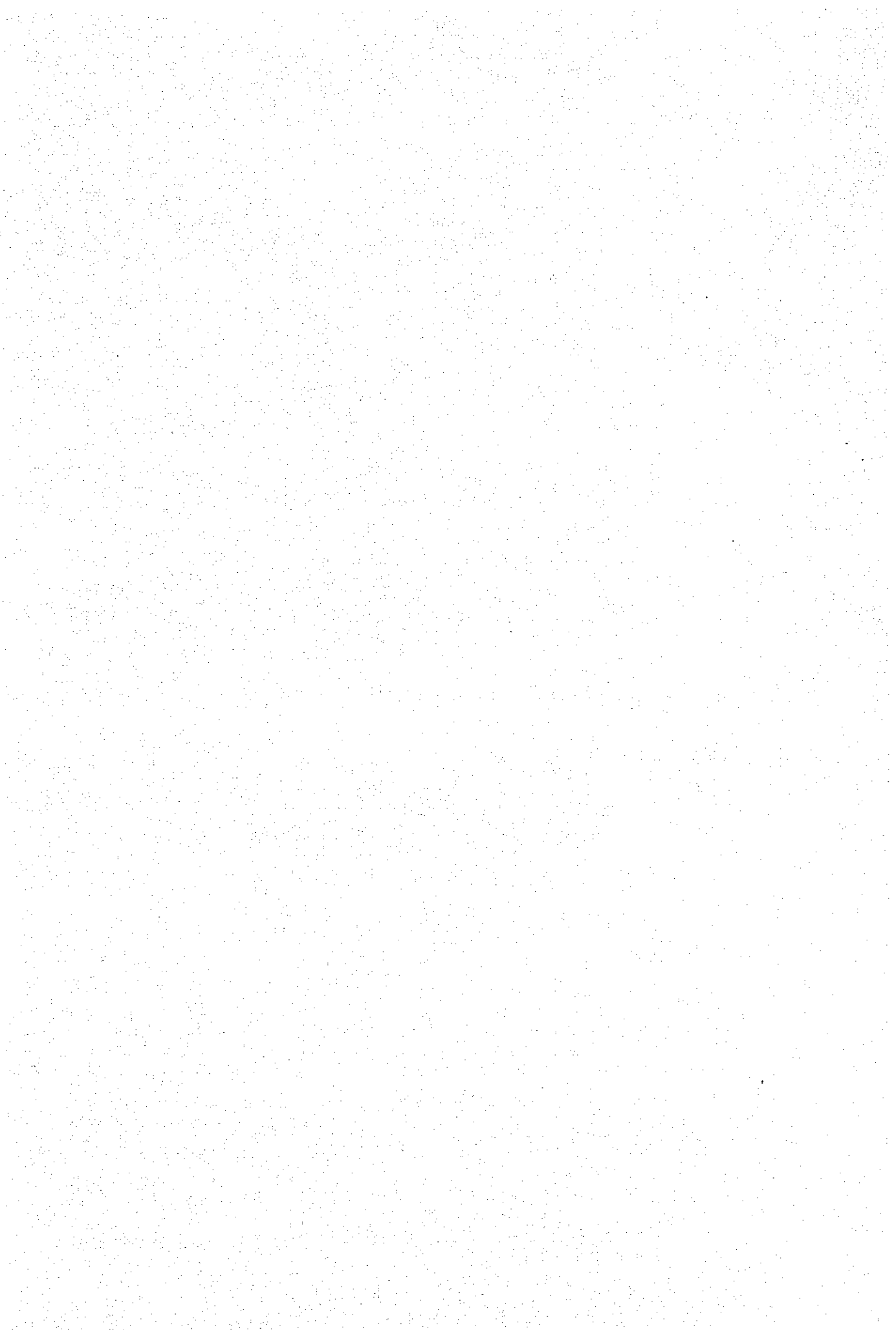
資料-5 調查團派遣経緯

三江平原龍頭橋典型區農業開發計畫調查期間の調査経緯(1/2)

調査区分	調査目的	調査期間	調査団構成	中国機関
事前調査	技術協力の妥当性を政策的観点から検討するため下記を調査 1. 調査調査要領内容の全貌を把握する。 2. 中国の農業政策における三江平原開発の位置付けを明らかにする。 3. 三江平原開発における竜頭橋地区開発の位置付けを明らかにする。 4. 援助効果の観点から技術協力の可能性を検討する。	1980年 9月7日～9月18日	団長：今西外務省開発協力課長 団員：かんがい排水 協力企画 業務調整 各1名 計4名	農業部、国家農業委員会 国家科学技術委員会 黒龍江省 合江省 宝清県
	技術的観点より妥当性を検討するため、下記を調査 1. 地域が農業開発として有効が検討する。 2. 技術面から、協力が明らかにする。 3. 協力形態の検討と協力分野・派遣人数、調査期間の概定。 4. 技術移転の方法を検討する。	1980年 10月10日～10月23日	団長：遼寧農水省建設部長 団員：農村開発、農業経済、ダム構造 物、湿地開発、農業、かんがい、 協力企画業務調整 各1名 計9名	同上
SW調査団	技術協力に関する実施細則の確認	1981年 7月2日～7月7日	団長：中川農水省建設部長 団員：5名 計6名	農業部：張慶益副局長他
実施調査	黒龍江省宝清県界隈力河の中流域4万haの農地の整備のため 1. かんがい、排水、開墾、道路、及びこれらに密接に関連する集落、 緑化、治水、発電等の整備計画協力。 2. 積極的に中流域への技術移転を、現地調査期間及び日本での研修 で実施する。	1981年 8月4日～12月10日	団長：杉田ADCA顧問 団員：農村計画、土壌、地域経済、管 理、写真図、測量、植生、沼澤、 冬期、水文、排水、地質2、発 電、施工計画2 計18名	工作団長：孫雲省水利局副局長 団員：土壌3、経済、農業、測量2、 林業、凍結、気象、水文、地質 2、水利3、かん排2、発電、 施工計画、道路、建築 計25名
	第一次調査で長期降雨と洪水のため資料収集が未定であり、地形図整 備、ダムサイト地表地質及びボーリング調査、製糖・溶解時の道路と 農地の現況調査を実施し、またランドサットデータの収集解析を行う。	1982年 3月25日～6月5日	団長：山下農用地開発公団指導役 団員：写真図、地表地質、ダム地質、 土質、測量設計2、農地整備 計8名	工作団長：張鳳儀省建設工程師 農業、測量2、土壌3、地質2、 沼上、水利、道路、他 計18名
調査実施	第三次調査の実施について、調査作業計画、委託作業計画、その他河 川及び県上関係調査の概い、技術移転研修等の方針協議。	1982年 6月9日～6月16日	団長：張慶益水省建設部長 団員：2名 計3名	農業部：張慶益副局長他
実施調査	受益区域の概定をし、農業総合計画及び灌漑、排水、農地・農村、河 川、道路の各計画の骨子を策定する。とくに、ダム位置の選定、かん がい排水区域の概定と、準備設計(中国初步設計)に必要な測量と地 質調査及び水文気象調査の実施並びに農業、土壌、農地、農村に關す る現地調査の実施。	1982年 6月9日～10月30日	団長：杉田ADCA顧問 団員：土壌、作物、農業、土地利用、 ダム3、地質4、測量4、地下 水、気象、水文2、道路、河川 かんがい、排水、農地整備、農 村計画 計25名	工作団長：張鳳儀省建設工程師 団員：農業、土壌、農業機械、林業、 水利4、ダム2、土質、沼上、 地質3、地下水、測量5、施工、 道路、かん排3、気象、水文3、 建築、他 計41名
	最終報告整理のための現地調査で、二次調査までの補充と新集の林 業、漁業、経済調査及び農業、農地整備、農村施設、かんがい、排水 水各施設工事、管理計画の策定並びに総合農業、農村整備、治水、発 達計画の策定及び検討。	1983年 6月6日～8月31日	団長：杉田ADCA顧問 団員：土壌、農業、農機、土地利用、 経済、林業、漁業、ダム2、畜 産、地質2、測量、地下水、河 川、水文、道路、農地整備、水 理、かんがい2、排水2、農村 計画2、施工2 計26名	工作団長：張鳳儀省建設工程師 団員：農業、土壌、測量、林業、水利 4、ダム2、土質、沼澤、地質 3、地下水、測量5、施工道路 かん排3、気象、水文3、建築 経済、漁業、他 計42名

三江平原農業総合試験場計画調査経緯(2/2)

年 月 日	調 査 区 分	調 査 目 的
1983. 6.19 ~ 6.29 (1984.4)	中国農林水産業プロファイ調査団 (開発調査申請)(中国→日本)	三江平原総合試験場を含む中国5プロジェクトの必要性と協力の妥当性を検討
1984. 7.26 ~ 8.10	三江平原農業総合試験場基本計画事前調査団	本事前調査の目的は以下の通りである。 ① 農業総合試験場基本計画に対する日中の意見交換 ② 農業総合試験場基本計画に係る諸資料の収集及びその所在の確認 ③ 農業総合試験場基本計画に係る対象地区、地域の調査(現地調査) ④ 実施細則の協議及び調印
1984. 9.11 ~ 10.12	三江平原農業総合試験場基本計画実施調査団	調査の目的は、三江平原の農業開発を進めるために、1981年より3年間にわたって実施した竜頭橋典型区農業開発計画調査の成果を踏まえ、水利土木分野及び農作物の低温冷害対策を中心とした農業分野の技術的拠点となる農業総合試験場の基本計画を策定することにある。 同時に、プロジェクト方式による技術協力の必要性とその可能性について検討を加えるものである。
1984. 9.27 ~ 10.12	作 業 監 理 調 査 団	
1985. 1.11 ~ 1.20	最 終 報 告 書 (案) 説 明 調 査 団	中国三江平原農業総合試験場基本計画実施調査最終報告書(案)を中国側へ提出
1985. 5.21 ~ 6.2	プロジェクト方式技術協力事前調査団	本プロジェクトについては、三江平原農業総合試験場の基本計画を策定する段階で、通常行う事前調査という概念での調査は必要でなく、プロ技協の実施協議(R/D署名)を進めるにあたり、予め確認および意見調整を図っておくことが必要と判断された次の事項について先方と協議する等の目的で派遣された。 (1) プロ技協の基本的枠組みに関する協議。 (2) 人工気象室(ファイトロン)のとり扱いに関する協議。 (3) 今後の対応スケジュールに関する協議。 (4) プロジェクト・サイトの現況確認。 (5) 専門家の宿舎、生活環境について。
1985. 9.10 ~ 9.22	実 施 協 議 調 査 団	技協の内容について協議し、R/Dに署名(9.20)5ヶ年の協力スタート
1985. 9.10 ~ 10.9	実 施 設 計 (人 工 気 象 室) 調 査 団 " (モ デ ル 圃 場) "	低温冷害研究のために必要な本施設建設に係る詳細協議、資料収集 水利開発研究のために必要な本施設建設に係る詳細協議、資料収集
1986.10.30 ~ 11.13	計 画 打 合 せ 調 査 団	① T. S. I の署名並びに詳細研究計画の協議 ② 86年度研究計画の策定 ③ 人工気象室、モデル圃場建設状況の把握 ④ プロジェクト運営上の問題点把握 ⑤ 専門家の生活環境等の調査 ⑥ 87年度活動計画の協議



JICA

